

授業科目：	管理会計論		
科目区分：	経営学科専門科目	受講者数：	41名
担当者：	足立 洋（経営情報学部経営学科）		
アクティブ・ラーニングのタイプ：	行動型 ・ 参加型 ・ 複合型（※行動型・参加型ALを組み合わせ実施）		
キーワード（具体的なAL手法等）：	グループディスカッション， ケーススタディ， レポート課題		

1. 授業の概要と目標

本授業の目標は、「経営活動の管理が会計情報を用いながらどのように行われているのかについて、基本的な理解をはかること」（シラバスより引用）であり、対面形式で実施している。

2. アクティブ・ラーニング導入の具体的な流れ

○科目名「戦略会計論」 第8回 授業テーマ「損益計算書による収益力の分析」

段階	指導過程・学修活動	指導上の留意点(工夫)	評価方法
導入 10分	前時の内容の振り返り(5分) 本時の目標の理解(5分)	本時の学修の流れと目標を理解させる。	
展開 70分	基本事項の説明(30分) 個人学修(15分) 学生が比較的身近に感じられる企業の財務諸表を配布。基本事項に出てきた経営指標を計算させる。 指名回答を交えながら解説 グループワーク・発表(25分) 先ほどの計算結果に基づいて、その企業の経営戦略の特徴を、ポーターの競争戦略の分析フレームワークなどを用いて分析させる。 分析内容は指名回答を交えながら総括	机間巡視を行い、ワーク上での疑問点について適宜説明 発表内容を肯定的に受け入れ、決して否定的なことを言わない。適宜補足説明を行う。	
まとめ 10分	本時のグループワークの総括(5分) 基本事項で出てきた経営指標の意味と分析方法に関するおさらい コメントカードの記述・提出(5分) 本時の講義内容への感想、あるいは質問を書いて提出させる	本時の学修全体を振り返らせる。	講義内容をよく聞いていた学生のカードは高評価。また、講義担当者は質問への回答をコメントし、次回の講義で全学生に返却

3. 成果・効果

授業の総合的な満足度(3.30)からして、講義運営については一定の成果を得たと考えている。特に、毎回のコメントカードの内容を確認する中で、会計学が経営戦略の分析と強く結びついていることを本講義で理解し、印象付けられたという感想が寄せられることが多い。この点は、ケース・スタディの方法を採用し、実際の企業の財務諸表分析を学生自身が手を動かすことによって実践する機会を提供している(前述の「計算」「グループワーク」の時間)ことが大きな成果を生み出していると考えている。

4. 課題

授業外学修時間が比較的少ないと認識している学生は前年度よりも割合が減少したもののまだ依然として少なくないと考えられる(2.40)。今年度は、課題については何回かに一回の授業で提示し、数週間をかけて完成・提出させるようにしていたが、一回の課題の量を少なくしてでも、

もう少し課題を頻繁に与えることを検討していきたい。

5. 資料

添付資料は特になし。